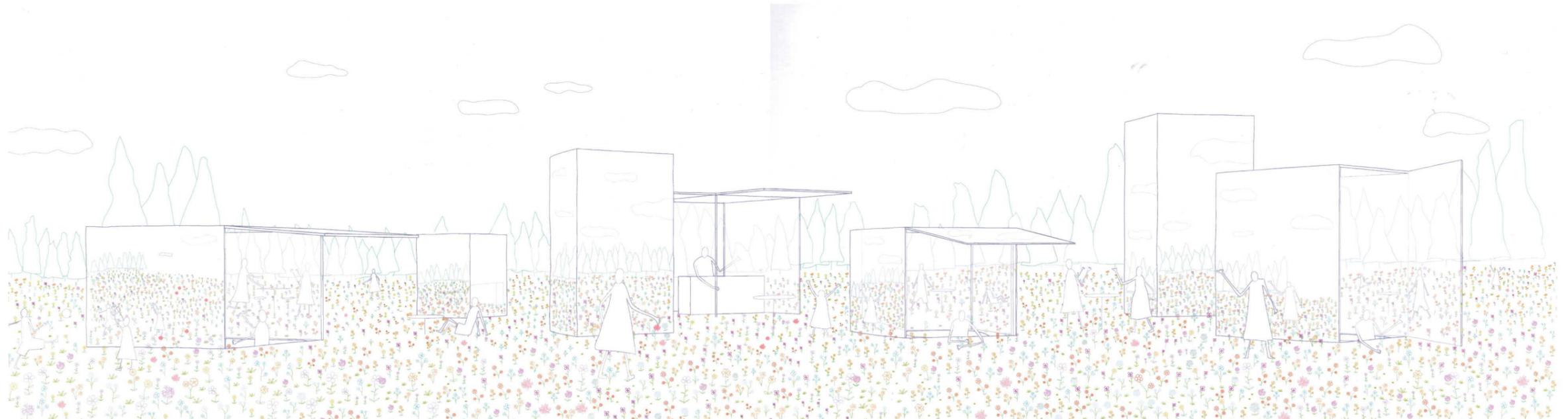


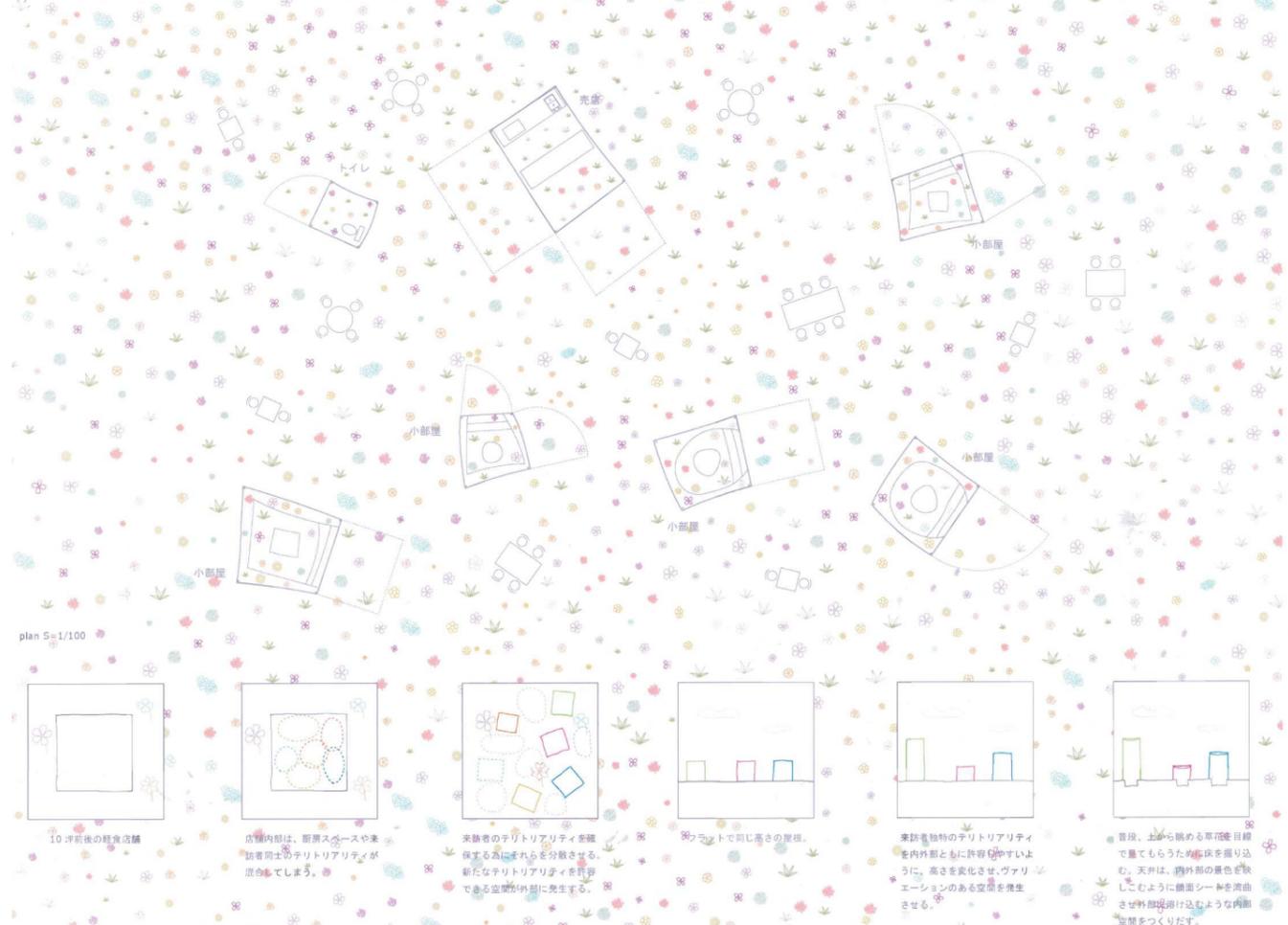
# Tea House Competition | BEST 75

審査員 | 五十嵐淳  
Jury | Jun Igarashi

共同設計 | 零石令子  
Collaborator | Noriko Shizukuishi

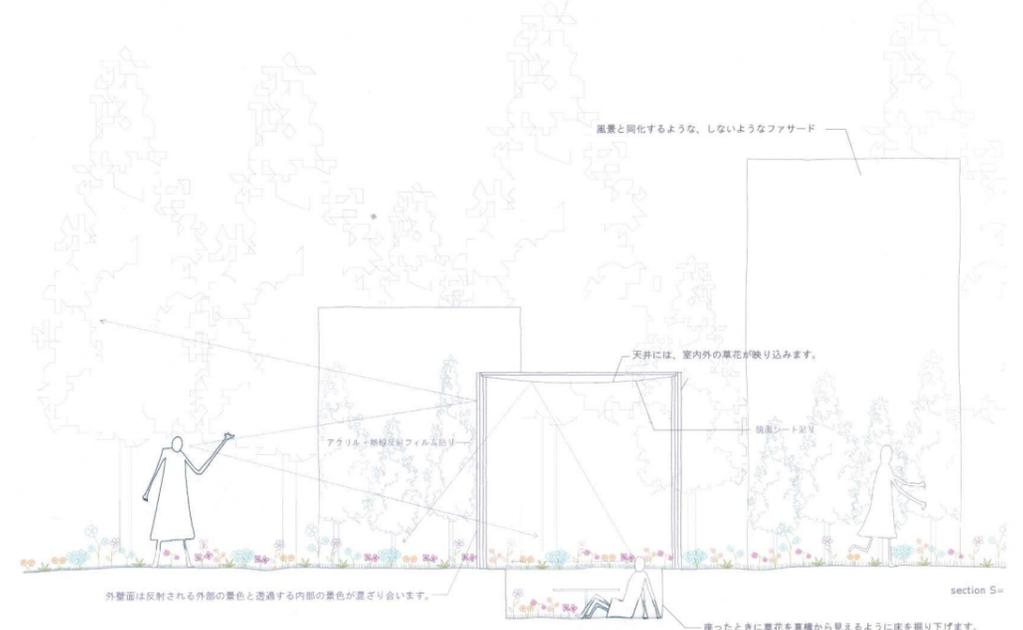


花を育てていくこの地の風景は日々変化していくだろう。単体の建築では、その変化に断ち切られる不安がある。曖昧な状態を「遊歩」を繰り返すことと見守る。外部の風景と内部の風景を同時に映し出す反射シート貼った建築をばつと配置していく。この曖昧な状態の連続が単体であることよりもっと「建築であることと建築でないこと」「変化する環境と同一化することと同一化しないこと」というような曖昧さを増幅してくれるのではないか。そういったものが、この地にふさわしいのではないかと感じ



plan S=1/100

- 10坪前後の軽食店舗
- 店舗内部は、扉扉スペースや来訪者同士がテリトリアリティが混同してしまう。
- 来訪者のテリトリアリティを確保する為には分断させる。新たなテリトリアリティを許容できる空間が外部に発生する。
- フラットで同じ高さの屋根。
- 来訪者独自のテリトリアリティを内外部ともに許容しやすいように、高さを変化させ、ヴァリエーションのある空間を発生させる。
- 首段、上から眺める草花を目標で集めらうため床を掘り込む。天井は、露外部の景色を映したむように曲面シートを流曲させ外部と分けようような内部空間をつくりだす。



section S-  
外壁面は反射される外部の景色と透過する内部の景色が混ざり合います。  
天井には、室内外の草花が映り込みます。  
曲面シート貼付  
遊歩するとき草花を真横から見えるように床を掘り下げます。

